【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年12月1日(2023.12.1)

【国際公開番号】WO2022/190272
【出願番号】特願2023-504974(P2023-504974)
【国際特許分類】
A61B 17/122(2006.01)
【FI】
A61B 17/122

【手続補正書】
【提出日】令和5年9月8日(2023.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
先端側が開閉自在である複数のアームを有するクリップと、
前記クリップの基端側の少なくとも一部が挿入される筒状の押さえ管と、
前記クリップと連結する連結部材と、
を備え、
前記押さえ管は、前記押さえ管の内部領域に設けられた締付部材と、径方向外側に対して突没可能な突没ウイングと、を有し、
前記締付部材は、前記突没ウイングよりも基端側に設けられ、
前記突没ウイングは、前記径方向において、前記押さえ管の外周面から外側に突出する突状態と、前記押さえ管の内側に没入する没状態と、を遷移可能に構成され、
前記突没ウイングが前記没状態の時、前記突没ウイングが前記連結部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する基端側への移動が規制され、
前記クリップは、前記内部領域に収容される収容領域において係合部を有し、
基端側へ移動した前記係合部が前記締付部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する先端側への移動が規制される、
内視鏡用処置具。
【請求項２】
前記締付部材は、リング状に形成されている、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項３】
前記締付部材は、前記押さえ管の他の部分よりも硬い材料で形成されている、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項４】
前記締付部材は金属で形成されており、
前記押さえ管の他の部分は、樹脂で形成されている、
請求項３に記載の内視鏡用処置具。
【請求項５】
前記押さえ管は、前記締付部材を基端側から支持する支持面を有する、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項６】
前記押さえ管は、前記締付部材を先端側から支持する支持面を有する、

請求項５に記載の内視鏡用処置具。
【請求項７】
前記締付部材は、前記押さえ管に設けられたスナップフィット部により取り付けられている、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項８】
前記締付部材は、インサート成形により前記押さえ管に取り付けられる
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項９】
前記締付部材は、支持部材に連結されることにより支持されており、
前記押さえ管は、前記支持部材を基端側から支持する、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項１０】
前記締付部材は、前記押さえ管に挿入される先端部と、前記押さえ管から基端側に露出する基端部と、を有し、
前記先端部は、内周面に前記係合部と係合するリング部が形成されている。
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項１１】
前記突没ウイングは、前記突没ウイングの内周面に、前記径方向の内側に突出するフックを有し、
前記突没ウイングが前記没状態の時に、前記フックは前記連結部材と係合する、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項１２】
前記アームは、前記アームの開閉方向に交差する方向に延びるストッパを有し、
前記ストッパが前記押さえ管の先端側の開口と係合することで、前記クリップの前記押さえ管に対する基端側への移動が規制される、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項１３】
前記連結部材は、前記押さえ管の前記内部領域に挿入される挿入部と、前記挿入部の基端側に設けられた連結部と、を有し、
前記連結部は、前記径方向において、前記押さえ管の内径よりも小さい幅を有し、且つ、前記締付部材の内径よりも大きい幅を有し、
前記連結部が前記締付部材に当接することで、前記締付部材の前記押さえ管に対する先端側への移動が規制される、
請求項１に記載の内視鏡用処置具。
【請求項１４】
内視鏡用処置具と、
クリップ導入装置と、
を備えたクリップ装置であって、
前記クリップ導入装置は、シースと、前記シースに挿通するワイヤと、を有し、
前記内視鏡用処置具は、
先端側が開閉自在である複数のアームを有するクリップと、
前記クリップの基端側の少なくとも一部が挿入される筒状の押さえ管と、
前記クリップと前記ワイヤとを連結する連結部材と、
を備え、
前記押さえ管は、前記押さえ管の内部領域に設けられた締付部材と、径方向外側に対して突没可能な突没ウイングと、を有し、
前記締付部材は、前記突没ウイングよりも基端側に設けられ、
前記突没ウイングは、前記径方向において、前記押さえ管の外周面から外側に突出する突状態と、前記押さえ管の内側に没入する没状態と、を遷移可能に構成され、前記突没ウ

イングが前記没状態の時、前記突没ウイングが前記連結部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する基端側への移動が規制され、
　前記クリップは、前記内部領域に収容される収容領域において係合部を有し、基端側へ移動した前記係合部が前記締付部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する先端側への移動が規制される、
　クリップ装置。
【請求項１５】
前記突没ウイングが前記突状態の時、前記締付部材は前記シースの内側に配される、
請求項１４に記載のクリップ装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
　上記課題を解決するために、この発明は以下の手段を提案している。
　本発明の第一の態様に係る内視鏡用処置具は、先端側が開閉自在である複数のアームを有するクリップと、前記クリップの基端側の少なくとも一部が挿入される筒状の押さえ管と、前記クリップと連結する連結部材と、を備え、前記押さえ管は、前記押さえ管の内部領域に設けられた締付部材と、径方向外側に対して突没可能な突没ウイングと、を有し、前記締付部材は、前記突没ウイングよりも基端側に設けられ、前記突没ウイングは、前記径方向において、前記押さえ管の外周面から外側に突出する突状態と、前記押さえ管の内側に没入する没状態と、を遷移可能に構成され、前記突没ウイングが前記没状態の時、前記突没ウイングが前記連結部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する基端側への移動が規制され、前記クリップは、前記内部領域に収容される収容領域において係合部を有し、基端側へ移動した前記係合部が前記締付部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する先端側への移動が規制される。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
　本発明の第二の態様に係るクリップ装置は、内視鏡用処置具と、クリップ導入装置と、を備えたクリップ装置であって、前記クリップ導入装置は、シースと、前記シースに挿通するワイヤと、を有し、前記内視鏡処置具は、先端側が開閉自在である複数のアームを有するクリップと、前記クリップの基端側の少なくとも一部が挿入される筒状の押さえ管と、前記クリップと前記ワイヤとを連結する連結部材と、を備え、前記押さえ管は、前記押さえ管の前記内部領域に設けられた締付部材と、径方向外側に対して突没可能な突没ウイングと、を有し、前記締付部材は、前記突没ウイングよりも基端側に設けられ、前記突没ウイングは、前記径方向において、前記押さえ管の外周面から外側に突出する突状態と、前記押さえ管の内側に没入する没状態と、を遷移可能に構成され、前記突没ウイングが前記没状態の時、前記突没ウイングが前記連結部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する基端側への移動が規制され、前記クリップは、前記内部領域に収容される収容領域において係合部を有し、基端側へ移動した前記係合部が前記締付部材と係合することにより、前記クリップは前記押さえ管に対する先端側への移動が規制される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００３２】
第一支持面３０１は、締付部材３２を基端側から支持する面であって、中心軸線Ｏ１に対して略垂直な面である。図７に示すように、支持面３０１と当接する締付部材３２の面は、中心軸線Ｏ１に対して略垂直であることが好ましい。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
図１７は、中心軸線Ｏ１に沿う押さえ管３Ｂの断面図である。図１７に示す断面図は、図１６に対して中心軸線Ｏ１を中心に９０度回転させた断面図である。
締付部材３２Ｂは、締付部材３２Ｂの中心軸が中心軸線Ｏ１と一致するように配置されている。締付部材３２Ｂは突没ウイング３１よりも基端側に配置されている。締付部材３２Ｂは、スナップフィット部３３により、押さえ管本体３０Ｂに取り付けられている。締付部材３２Ｂの基端側は、押さえ管本体３０Ｂに形成された支持面３０ｓに当接している。支持面３０ｓは、第一支持面３０１と、第二支持面３０２と、を有する。